

平成28年度

## 第2回国有林モニターアンケート 結果概要 (東北森林管理局)

東北森林管理局では、開かれた「国民の森林」の実現に向け、国民の皆様のご意見やご感想を適確に把握し、それらを反映した管理経営を推進するための取組の一つとして、国有林モニター制度を設けています。

この度、平成29年1月～平成29年2月に、平成28年度第2回国有林モニターアンケートを実施しましたので、その結果概要についてお知らせします。なお、自由記述のご意見等については、抜粋・整理して掲載しております。

国有林モニター制度とは、アンケートの実施や国有林モニター会議の開催等を通じて意見を伺うほか、広報やパンフレットで情報提供を行うなど、国民の皆様と国有林との間で、双方向の情報受発信を行う取組です。

現在、平成28年4月～平成30年3月の2年間を任期として、管内5県の34名の方にモニターに着任して頂いております。

### ○ アンケートの実施概要

発送 : 平成29年1月31日  
回答期限 : 平成29年2月21日  
回答率 : 97%(34人中33人回答)

※希望される方には電子ファイルでのアンケート配布・回答を実施。

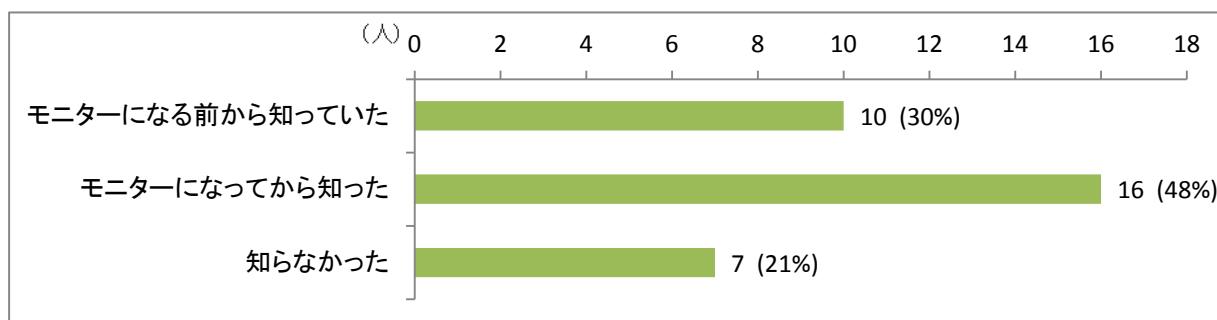
33人中3人の方が電子ファイルを用いてメールにより回答。

ご協力いただきました国有林モニターの皆様に、厚く御礼申し上げます。

# 1 森林ふれあい推進事業について

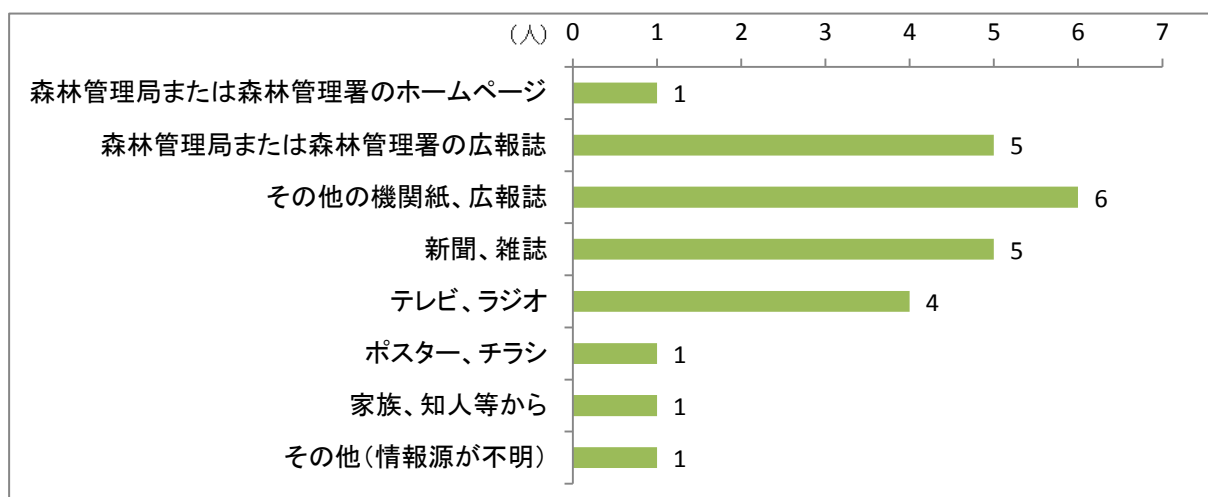
東北森林管理局では、国有林のフィールドを活用した体験活動を通じて、国民の皆様に森林・林業に対する理解を深めていただいたり、「自ら森林づくりや森林内での活動をやってみたい」という国民の皆様の要望に応えたりするため、一般の方を対象とした森林ガイドツアーをはじめとしたイベントや森林づくり活動（森林ふれあい推進事業）を実施しています。

問1 このような取組について知っていましたか。

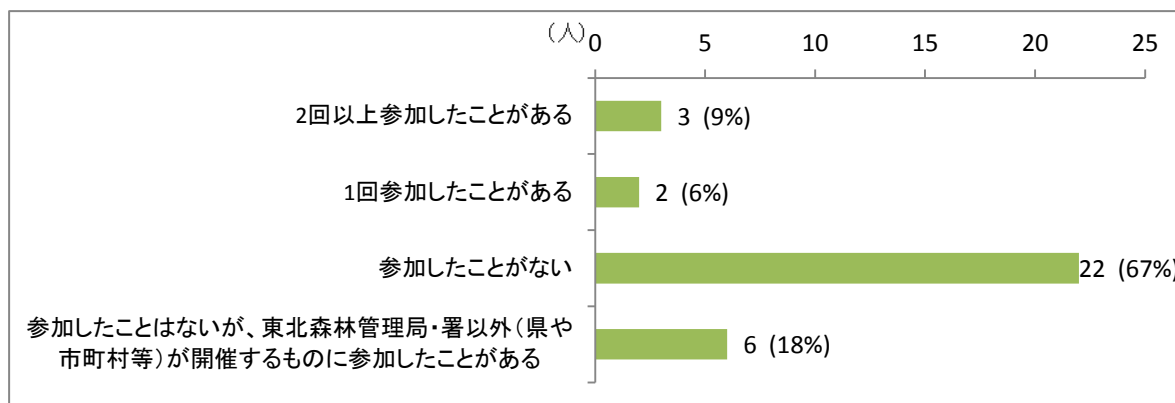


問2 問1で「モニターになる前から知っていた」と回答された方にお聞きします。

このような取組を、どのような情報を元に知りましたか（複数回答可）。



問3 東北森林管理局または各森林管理局が主催する、森林ガイドツアーをはじめとしたイベントや森林づくり活動に参加したことがありますか。



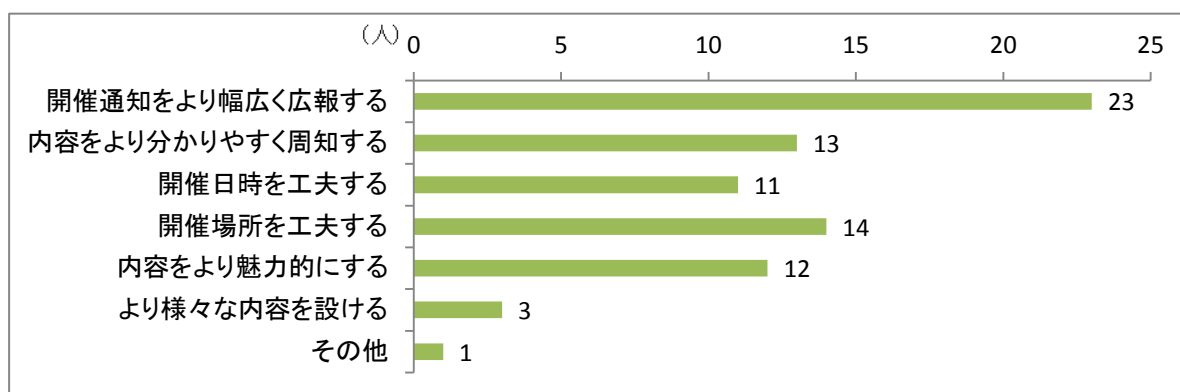
問4 問3で「2回以上参加したことがある」または「1回参加したことがある」と回答された方にお聞きします。どのような取組に参加しましたか。また、参加した動機やその感想・ご意見等をお聞かせ下さい。(自由記述)

(意見等の概要)

- ・ 白神森林講座 (2名)
  - ガイド同伴で地元の山を歩いてみたかった。ガイドの方のスキルの高さに感心した。
  - 世界遺産地域について知りたいと思い参加した。景観が素晴らしいと感じた。
- ・ 千歳山の再生に向けた植樹体験
  - マツ枯れが進んだ地元の山の再生に少しでも貢献できればと思い参加した。継続実施と積極的な広報を希望する。
- ・ 植樹体験
- ・ 西目屋村内でブナ植林

問5 問3で「参加したことがない」または「参加したことがないが、東北森林管理局・署以外（県や市町村等）が開催するものに参加したことがある」と回答された方にお聞きします。

これまで参加したことがない方に参加していただくために、どのような点が改善されれば良いと思いますか。当てはまるものをお選び下さい（複数回答可）。また、どのような取組であれば参加してみたいと思いますか（自由記述）。



（「その他」の意見）

- ・募集人数を増やす。

（参加してみたいと思う取組）

【開催内容について】

- ・工場見学
- ・木工工作
- ・森林浴セミナー
- ・アウトドア、バードウォッチング
- ・山仕事体験
- ・トレイルラン

【開催方法について】

- ・森林の良さが感じられるようにワークショップ型で開催。
- ・事業に関心を持ってもらう入口として、山菜・写真・山の歴史などの内容を盛り込んでほしい。
- ・NHKのカルチャー教室、民間NPOのイベントとのコラボ・家族で気軽に参加できるもの。
- ・昼食付きのツアー。
- ・開催場所の工夫。
- ・休日に開催。
- ・親子参加が可能なもの。

## 【広報について】

- ・新聞の地域情報欄に載せる。
- ・きめ細かい広報活動。
- ・県、市町村の広報誌に紹介する。
- ・気軽に楽しめる旨全面広告された企画。

## 「1 森林ふれあい推進事業について」のまとめ

### ○ 森林ふれあい推進事業の認知度について

33人中10人(30%)が、「モニターになる前から知っていた」と回答されました。モニターになる前に知ったきっかけとしては、「森林管理局・署の広報誌(6人)」、「その他の機関紙、広報誌(5人)」、「新聞、雑誌(5人)」、「テレビ、ラジオ(4人)」となり、きっかけは多種多様であることが分かりました。一方で、森林ふれあい推進事業を網羅的に掲載している「森林管理局・署のホームページ」は1人となり、あまりきっかけになっていないことがうかがえます。

今後、広報誌をはじめとした多種多様な広報媒体を活用するとともに、ホームページにおける広報の工夫に努めていきたいと考えております。

### ○ 森林ふれあい推進事業の参加について

森林ふれあい推進事業に1回以上参加したことがあるのは33人中5人(15%)となりました。参加したことの無い方に対して参加を促進する取組としては、「開催通知をより幅広く広報する(23人)」と回答された方が最も多く、「開催場所を工夫する(14人)」、「内容をより分かりやすく広報する(13人)」、「内容をより魅力的にする(12人)」、「開催日時を工夫する(11人)」と回答された方も一定数いらっしゃいました。

今後、開催通知の広報の積極的な実施や、開催内容・開催方法の工夫に努めていきたいと考えております。

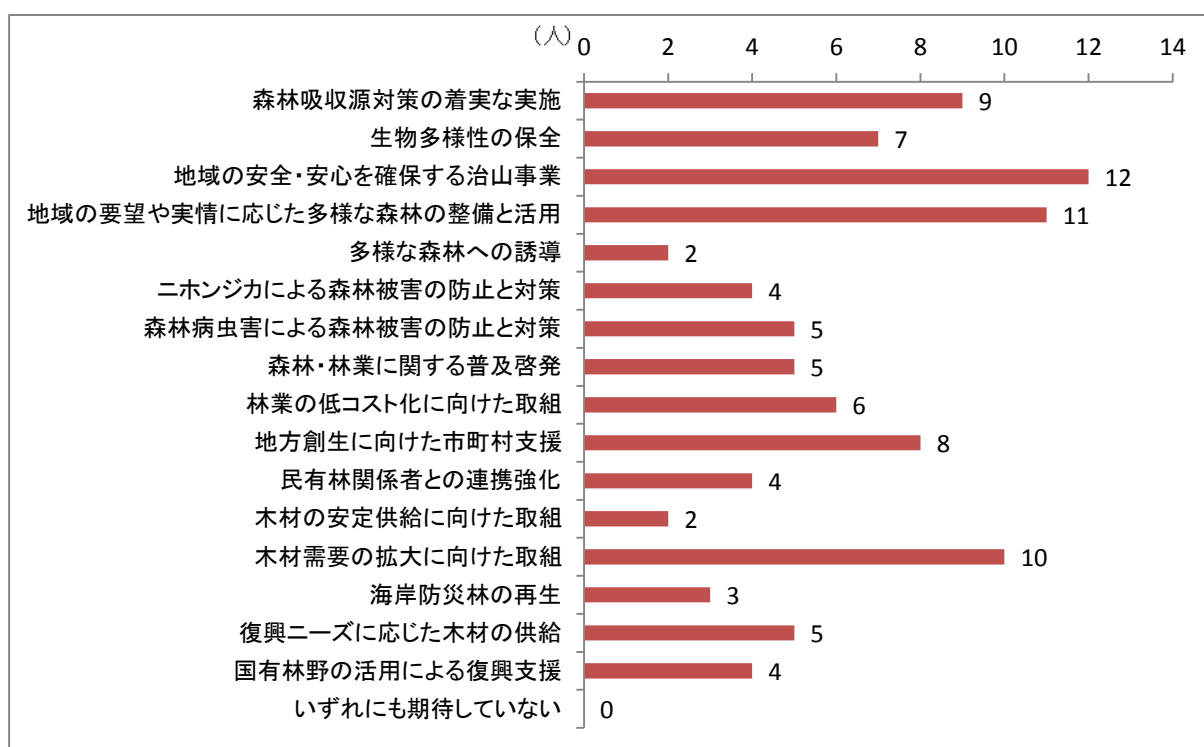
## 2 主要取組事項について

東北森林管理局では、1年間で行う主要な取組について国民の皆様にご理解いただくため、「主要取組事項」を作成しています。

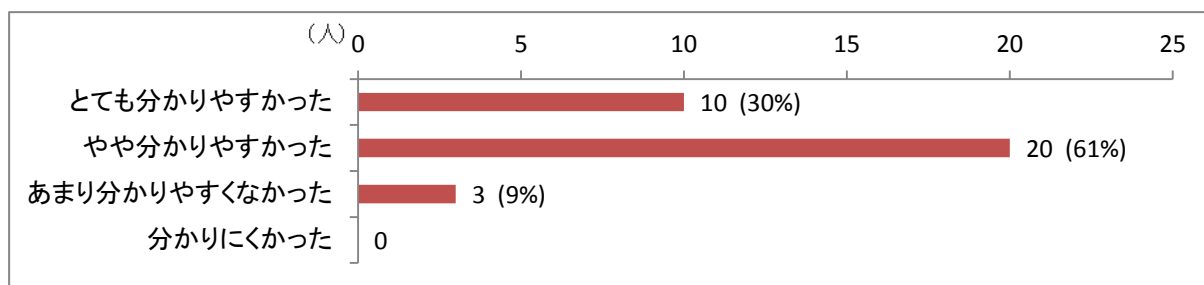
(主要取組事項について)

<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/press/kikaku/280413torikumi.html?mode=preview>

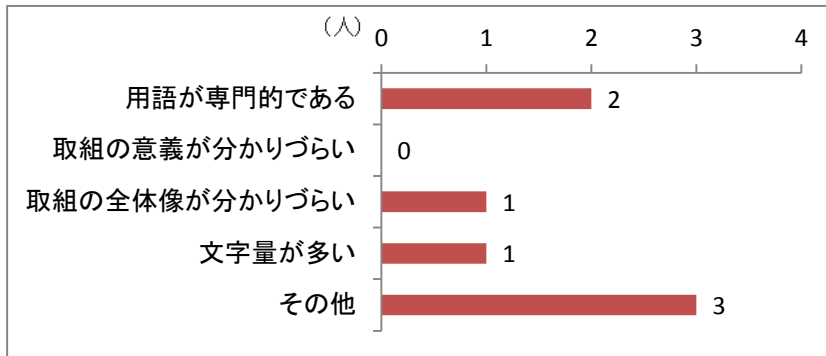
問1 主要取組事項の中で、何が重要な取組であると期待していますか。最も当てはまるものを3つまでお選び下さい。



問2 主要取組事項全体を通して、内容は分かりやすかったですか。最も当てはまるものを1つお選び下さい。



問3 「あまり分かりやすくなかった」または「分かりにくかった」と回答された方にお聞きします。どうして分かりにくかったですか。当てはまるものを全てお選び下さい。



(「その他」の意見)

- ・内容が専門的。
- ・項目が多い。
- ・読み物資料としては難しい。

## 「2 主要取組事項について」のまとめ

### ○ 重要と期待されている取組

「地域の安全・安心を確保する治山事業 (12人)」、「地域の要望や実情に応じた多様な森林の整備と活用 (11人)」、「森林吸収源対策 (9人)」と回答された方が多く、今年度、森林整備や治山をテーマとしてモニター現地見学会を実施したことで、その意義を実感しやすかったことが考えられます。

また、「木材需要の拡大に向けた取組 (10人)」とお答えになった方も多く、木材需要を拡大する取組にも期待が集まっていることがうかがえます。

### ○ 資料の分かりやすさ

33人中30人(91%)が「とても分かりやすかった」、「やや分かりやすかった」と回答され、多くの方が資料を分かりやすいと感じておられることが分かります。一方で、少数ではありますが、「用語や内容が専門的」、「取組の全体像が分かりづらい」、「文字量が多い」等のご意見をいただいたので、今後の資料作成の参考にさせていただきます。

今回アンケートに御協力いただきましたモニターの皆様に、重ねて御礼を申し上げます。寄せられた意見を元に、国有林野事業のより適切な実施に向けて努力してまいります。